

幸田町地域公共交通計画(仮称)策定について

～計画の基本方針～

1. 課題整理・基本方針の検討の流れ

直接的な上位計画且つ前計画である「幸田町都市交通マスタープランにおける取組状況」、「現況整理」、「上位・関連計画」を踏まえて、「公共交通の課題」を整理した。「公共交通の課題」の解決、「基本理念」を達成するための「基本方針」を設定した。

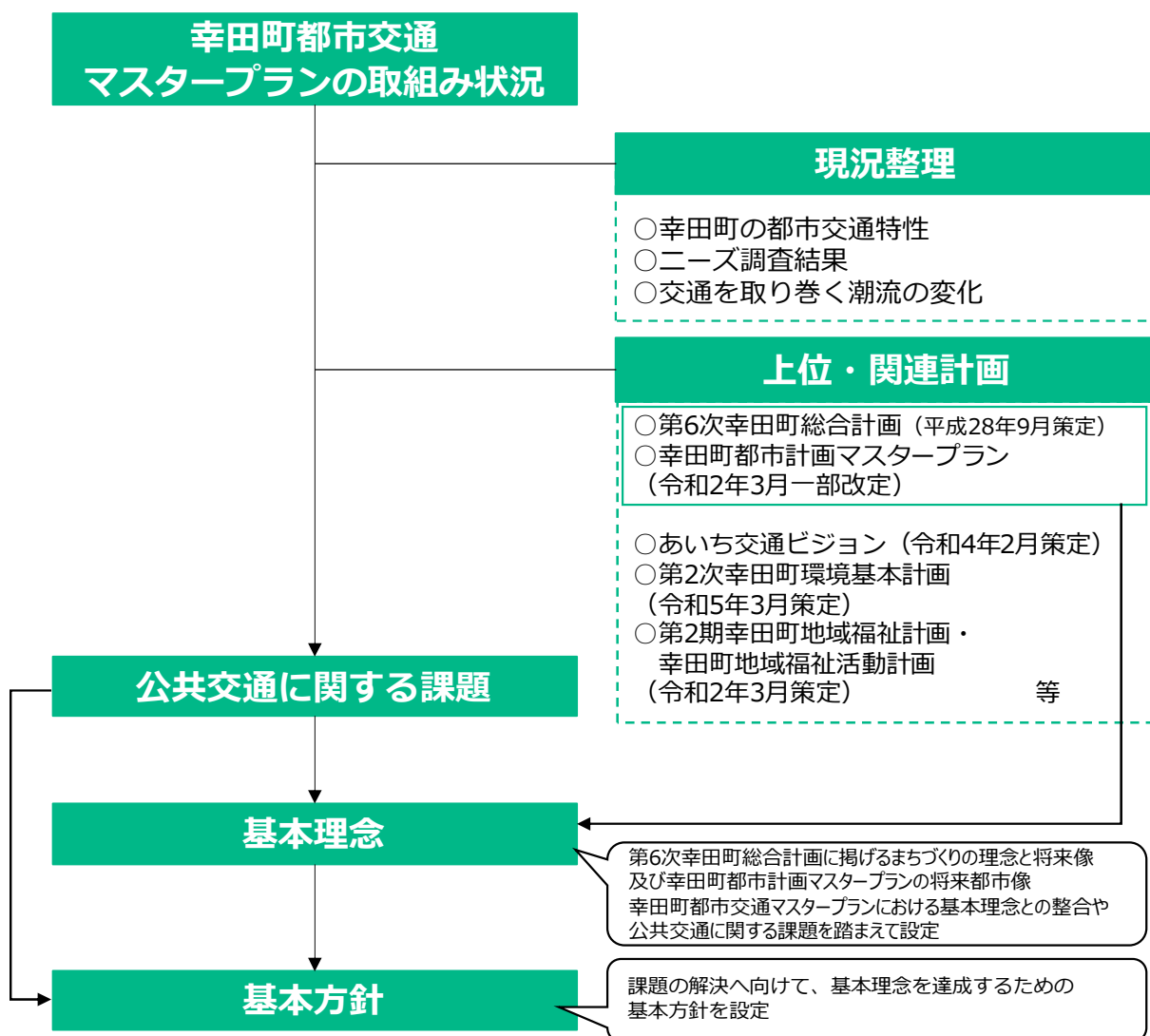
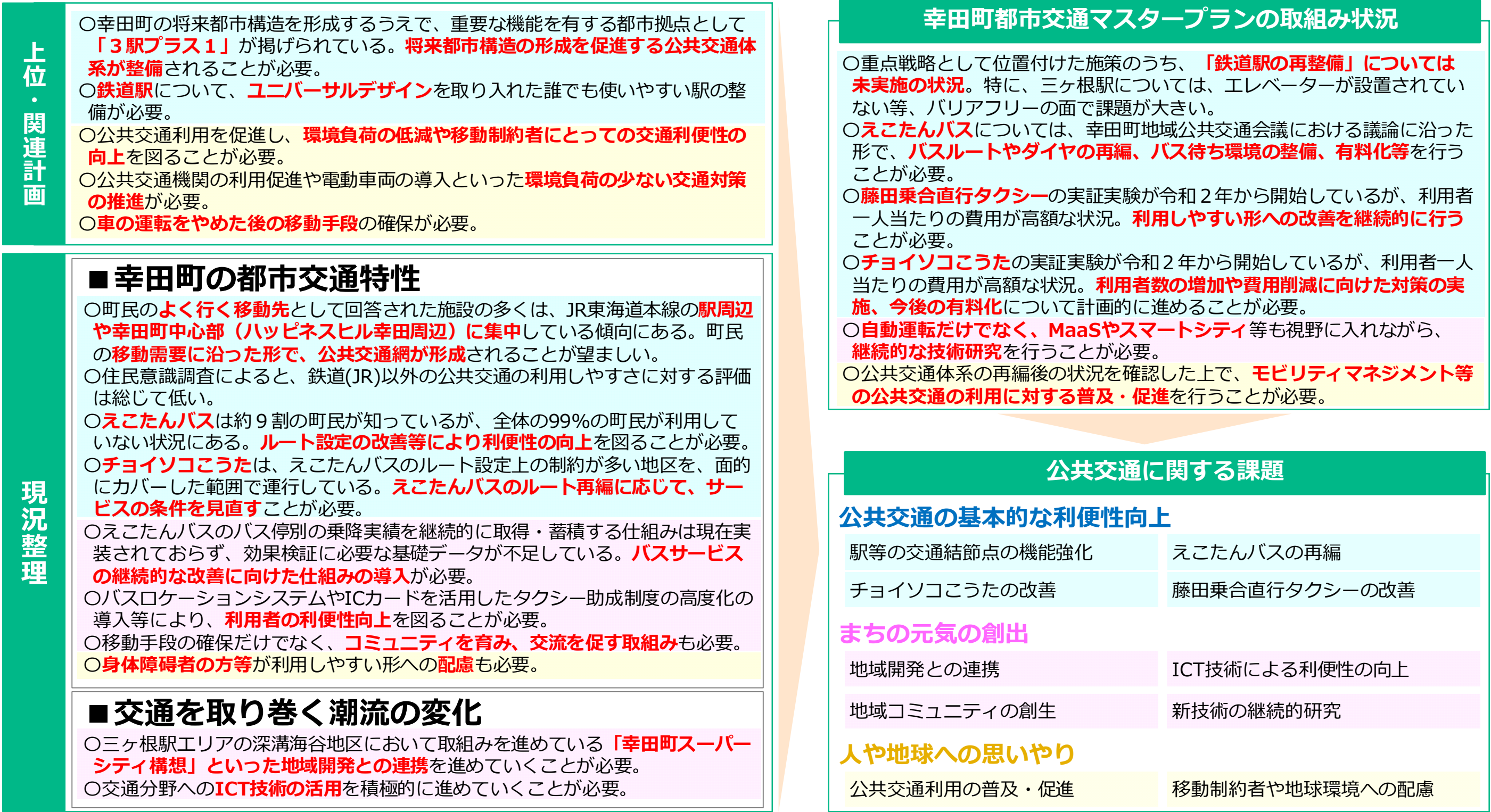


図 1-1 課題整理・基本方針の検討の流れ

2. 公共交通の課題

「幸田町都市交通マスタープランにおける取組状況」、「現況整理」、「上位・関連計画」を踏まえて、「公共交通の課題」を整理し、下記3つの観点から公共交通に関する課題を抽出した。

- ①：駅等の交通結節点の機能強化、えこたんバスの再編、チョイソコこうた・藤田乗合直行タクシーの改善等の「公共交通の基本的な利便性向上」に関連したもの。
- ②：幸田町スーパーシティ構想などの地域開発との連携、ICT技術の活用、地域コミュニティの創生等の「まちの元気の創出」に関連したもの。
- ③：公共交通利用の普及促進、移動制約者や地球環境への配慮といった「人や地球への思いやり」に関連したもの。



3. 計画の基本方針

3.1 基本理念

第6次幸田町総合計画に掲げる「まちづくりの理念」と「めざすべき将来像」、幸田町都市計画マスタープランの「将来都市像」、都市交通マスタープランにおける「基本理念」との整合や公共交通に関する課題を踏まえて、基本理念を以下の通り設定した。

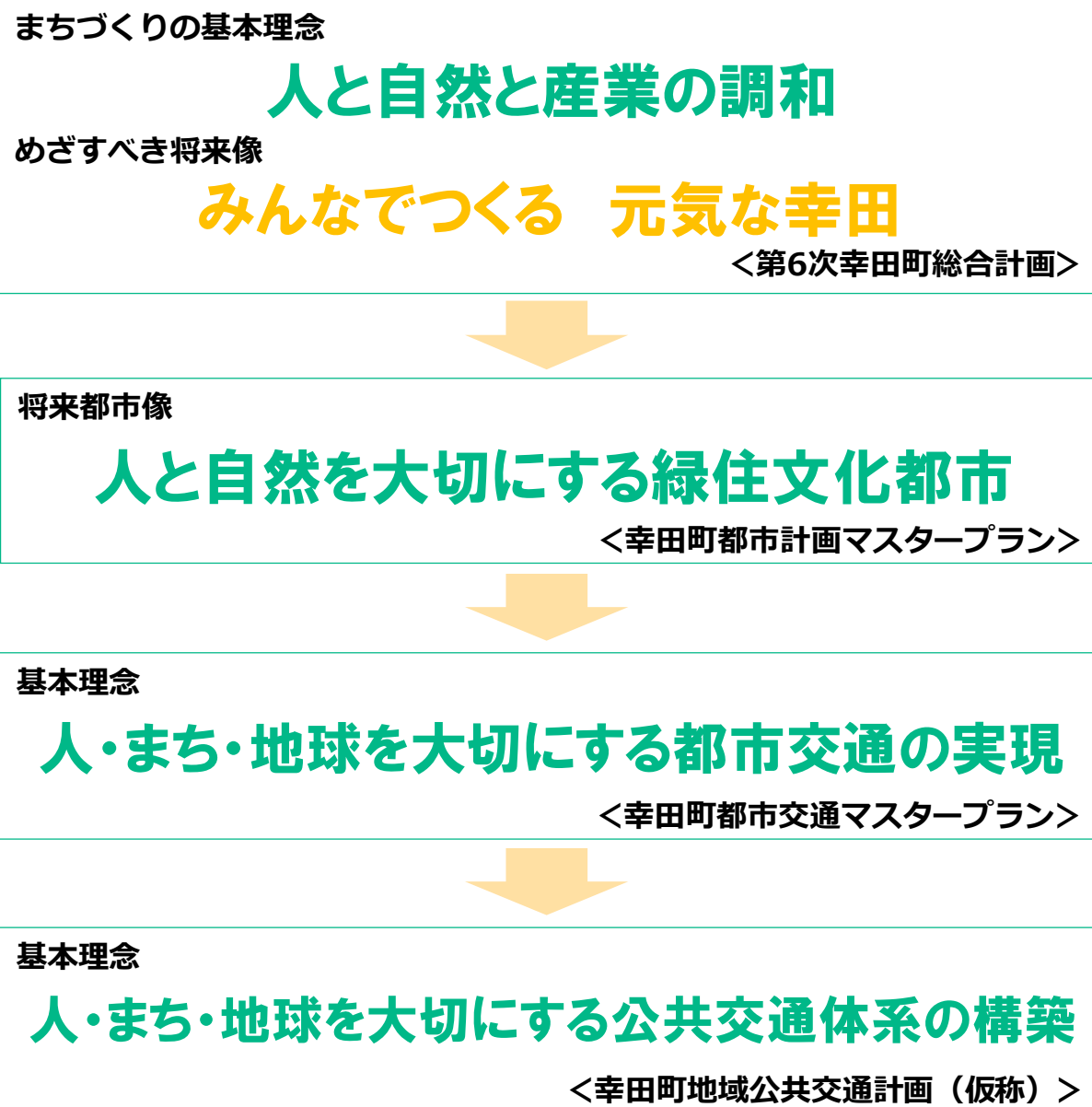


図 3-1 基本理念の設定

3.2 基本方針

基本理念の実現を図るため、その実現性の旗印となる基本方針を以下に設定する。

駅等の交通結節点の機能強化や、幸田町内の公共交通（えこたんバス、チョイソコこうた、藤田乗合直行タクシー等）の再編・改善により、公共交通の基本的な利便性向上を図るため、基本方針①として『**便利で使いやすい公共交通体系の構築**』を掲げる。

幸田町スーパーシティ構想などの地域開発との連携、I C T技術の活用を行い幸田町の活力の創出を図るため、基本方針②として『**まちが元気になる公共交通体系の構築**』を掲げる。

公共交通の利用促進や移動制約者への配慮、地球環境問題の解決へ向けた貢献を行うため、基本方針③として『**人や地球を思いやる公共交通体系の構築**』を掲げる。



図 3-2 幸田町地域公共交通計画（仮称）における基本方針

3.3 幸田町が目指す公共交通の将来像

3.3.1 幸田町都市交通マスタープランにおける将来公共交通体系

幸田町都市交通マスタープランで記載された将来公共交通体系を以下に示す。

幸田町内全域を網羅する形で設定されていたバスルートの集約や、フィーダー型交通の導入について記載がされている。

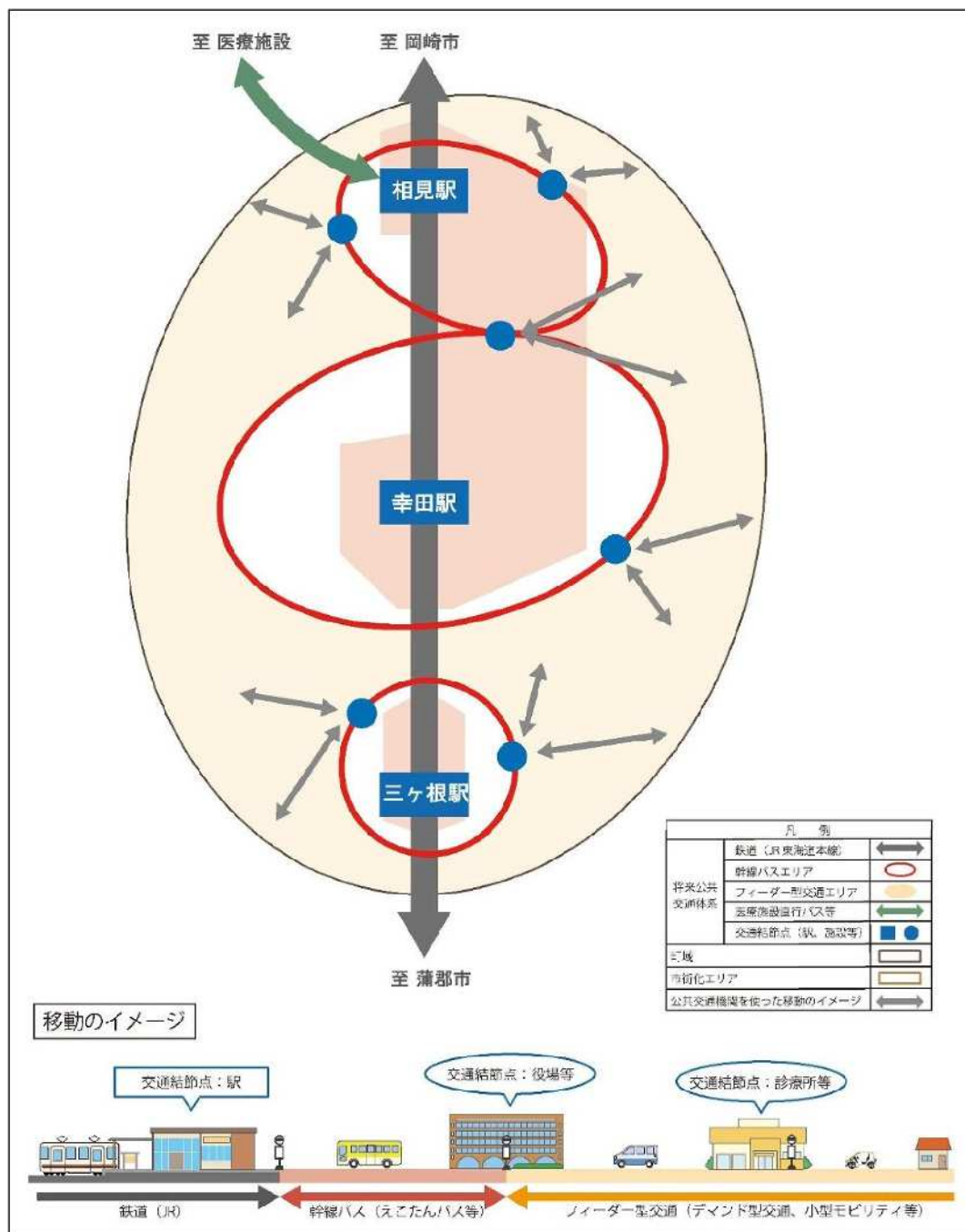


図 将来公共交通体系図

※フィーダー型交通：地域間や拠点間を結ぶ幹線的な交通に対して、その幹線のバス停や鉄道駅からさらに延びる支線的な路線を運行する交通のこと。

※医療施設直行バス等：幸田町内から高度医療を受けられる施設に直接アクセスすることができるバス等のこと。

図 3-3 幸田町都市交通マスタープランにおける将来公共交通体系

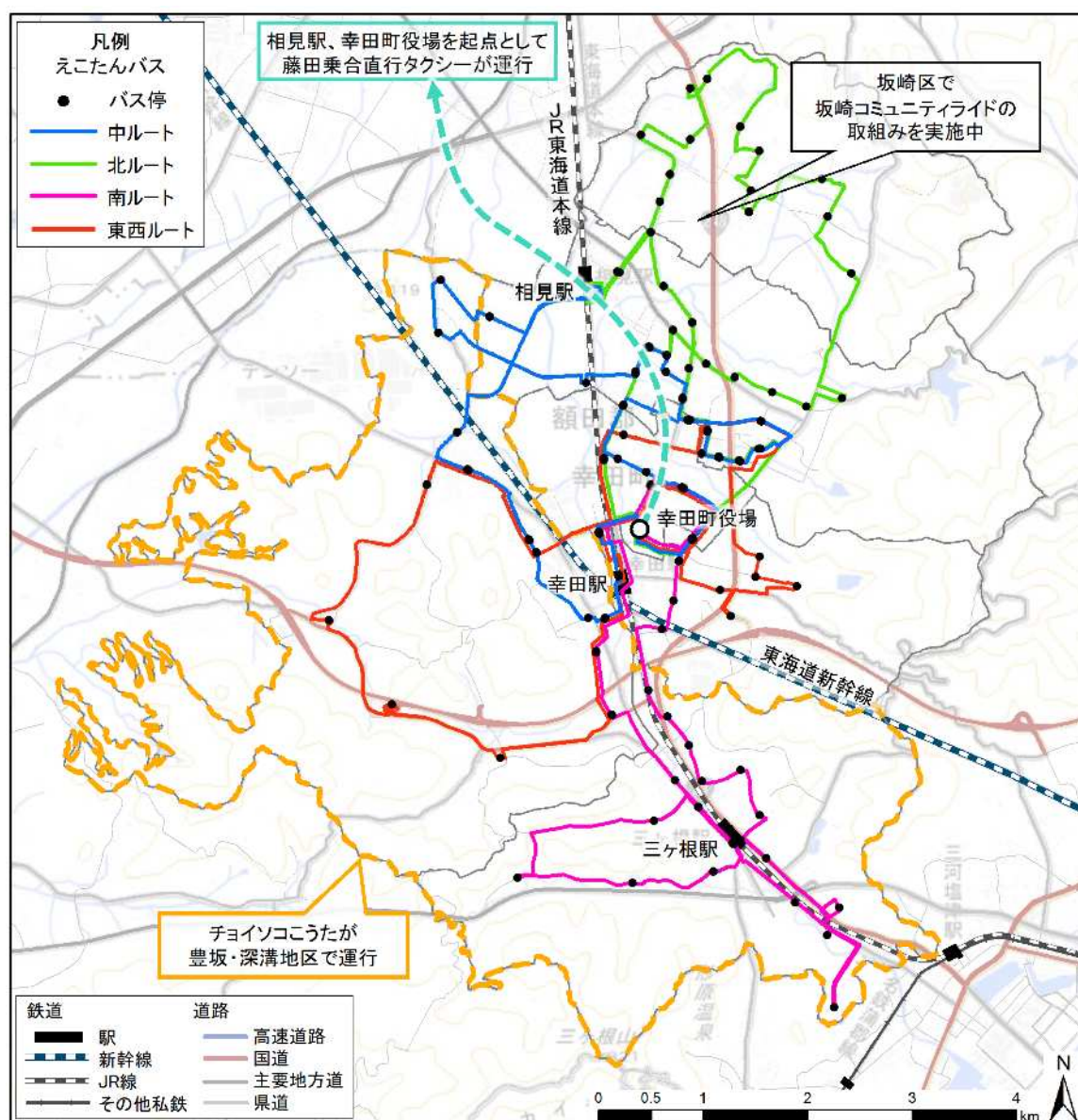
3.3.2 幸田町都市交通マスタープラン策定時（令和２年）からの町内の交通モードの変化

(1) チョイソコこうたの実証運行開始（令和２年～）

- ・区域運行のデマンド型乗り合い送迎サービス
- ・豊坂及び深溝小学校区在住の 65 歳以上または障害者手帳所持者を対象に社会実験

(2) 藤田乗合直行タクシー（令和２年～）

- ・幸田町と「藤田医科大学岡崎医療センター」を直通で結ぶ通院用の直行タクシー
- ・停留所は、役場、ＪＲ相見駅（東口側）、藤田医科大学岡崎医療センター



資料：幸田町 HP（えこたんバス）

国土交通省 国土数値情報（鉄道データ、行政区域）（<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>）、地理院タイルを加工して作成

図 3-4 幸田町の公共交通網

3.3.3 幸田町の公共交通に対する町民ニーズ

ニーズ調査の結果について、公共交通体系に関連した部分を以下に示す。

(1) えこたんバスのルート再編

「運行本数を増やす」をえこたんバスの改善点として挙げる人の割合が最も高かった。えこたんバスのルートは、一周当たりの所要時間が約1時間と長大な路線なっていることから、ルートのコンパクト化を図り、一周当たりの所要時間を短縮し、運行本数を確保する必要があると考えられる。

(2) 3駅と幸田町中心部へのアクセス性向上

町の財政負担として優先して使われるべきものとして、「駅、買い物、通院」へ便利に移動できるようにするため」を挙げる人の割合が高かった。公共交通の再編に当たっては、3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）や幸田町の中心部へのアクセス性を向上させる方向性を目指す必要がある。

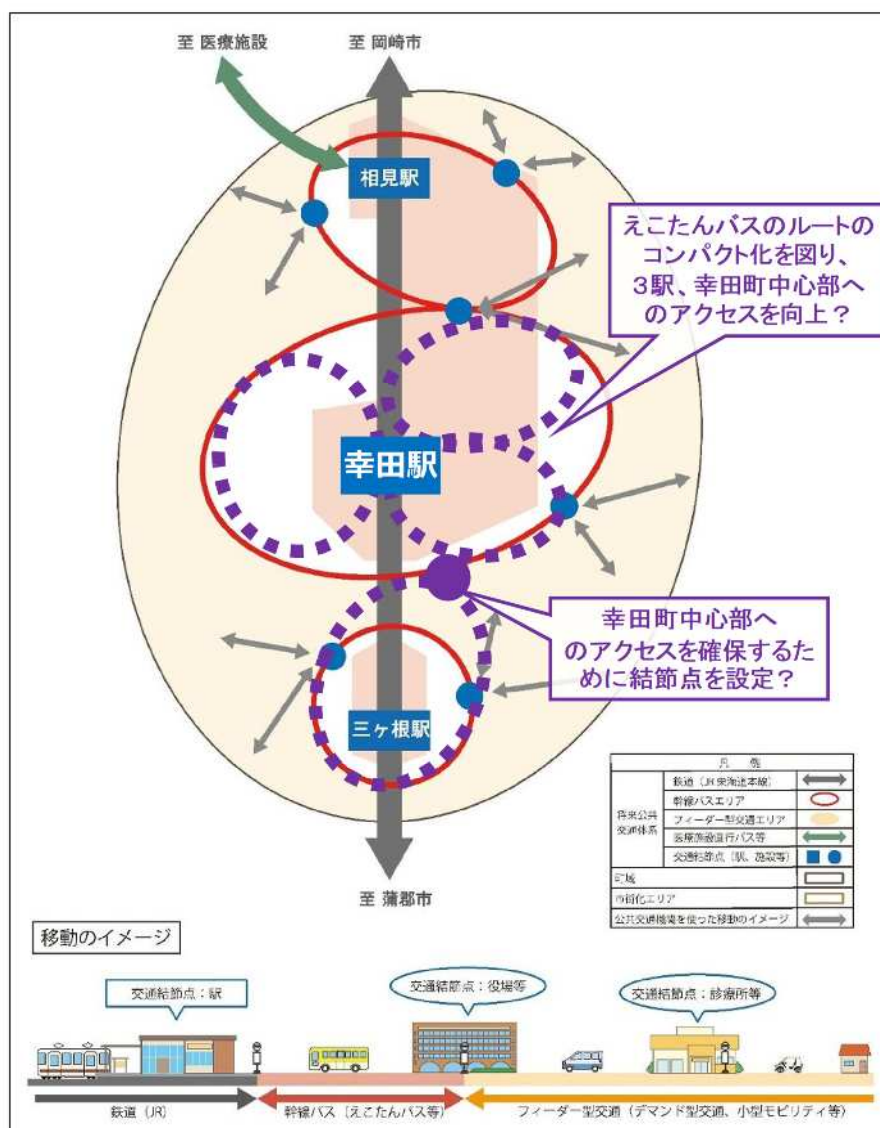


図 3-5 幸田町都市交通マスタープランにおける将来公共交通体系(ニーズ調査の意向追記)

3.3.4 幸田町が目指す公共交通の将来像の検討に向けた論点

(1) 論点①：対象者

- ・幸田町の公共交通を整備するうえで、優先すべきターゲット層
- ・チョイソコこうたの対象者に中高生を含めるべきか否か

(2) 論点②：曜日・時間帯

- ・休日は運行すべきか否か
- ・朝夕ピークの時間帯までを運行時間帯に含めるべきか否か

(3) 論点③：ルート・エリア

- ・優先的にアクセス性を高めるべき拠点
- ・えこたんバスとチョイソコこうたの役割分担
- ・深溝地域から幸田町中心部への移動等の直接目的地へ行きたい需要への対応
- ・岡崎市等の隣接自治体への乗り入れ